

三浦半島支部だより

平成 24 年 3 月 25 日発行
第 13 号

発行者: 社団法人宮陵会(神奈川大学校友会)三浦半島支部 企画・広報委員会
事務局: 鎌倉市津西 1-31-15 Tel: 0467-32-4957

支部長挨拶 古川 勝彦



(社)宮陵会三浦半島支部長の古川(昭和40年経済卒)でございます。

1月29日の支部新年会の開催にあたり、お忙しい中、来賓はじめ会員、

多数ご参加頂き、厚く御礼申し上げます。

当支部も、皆様の支え、ご協力のおかげで、早いもので、満6年目を迎え、感謝の一言であります。

ところで、正月恒例の「箱根駅伝」は、2日と3日、支部担当地区のJR保土ヶ谷駅前に会員他支援の皆様が、多数応援にご参加頂き、本席をお借りして御礼申し上げます。

結果は、15位で、シード権確保に至りませんでした。練習と支援強化により、3、4年後には必ずや、優勝争いからむとの決意が、17日の報告会で発表されました。大いに期待したいものです。

さらに、5日は、国立競技場での、日体大との「全日本大学女子サッカー選手権」大会が開催され、1-1の結果、特別ルールで、両校優勝の栄誉に輝きました。女子サッカーの“優勝”の二文字から、私達は大きなプレゼントを頂きました。

また、8日には、みなとみらい大ホールでの全日本で連覇を重ねる吹奏楽部発表会での金賞受賞通算24回の活躍も頼もしい限りです。

さて、昨年は、東日本大震災と、全電源喪失を想定していなかったというお粗末な原発事故をはじめ、腹の立つ事の多い一年でした。世の中は、「天災」と「人災」が複合しながら連続して発生し、大きな転換期を迎えています。

早く、指導力のある体制が築かれることを望んでいますし、「静」から「動」、「絆」から「活」をベースに、前向きで明るい年になるように祈念したいと思います。

支部発足以来、種々苦難を乗り越え、支部の体制構築と活動の充実に取り組んでおりますものの、まだまだ道半ばではありますが、基本姿勢は、皆様と力を合わせ、知恵を出し合い、地道な活動を重ねつつ、私見としては、今、卒業生の大部分

が、地元神奈川県に在住している現状を鑑み、「神奈川の地に、母校の礎を強固に築き、母校とともに、卒業生が各界で繋がり、輪を拡げて、協力、助け合わねばならない」と、強く考えております。例えば、神奈川県地区の連合支部の立ち上げや、社会人として、第一歩を踏み出す地域在住の卒業生と、地域支部との接点を設け、地区支部への入会と更なるネットワークの拡大を意識したい。

最後に、会員皆様はじめ役員の支えに、感謝しておりますと共に、引き続き、皆様方のご支援、ご協力を重ねてお願い申し上げます。

第88回東京箱根間往復大学駅伝競争

今年の箱根駅伝は、選手の強化策の成果が出て、久々にシード権を獲得するのではないかという期待を抱いて応援しました。結果、シード権は逃しましたが、来年に繋がる手ごたえを感じることもできるレースだったと、総括しています。今回は、選手を日頃から応援、指導されている立場からの特別寄稿もいただきました。

神大の成績

◎予選会：平成23年10月15日(土) 9:30 ｽｰﾄﾞ

陸上自衛隊立川駐屯地スタート～国営昭和記念公園ゴール

9校の予選通過棒をかけて40校が、20Kmのコースで競った。

☆順位 5位(レース順位5位)

◎本戦：平成24年1月2日(月)・3日(火)

2年連続43回出場

往路成績(108.0Km) 順位15位(昨年15位)

復路成績(109.9Km) 順位17位(昨年14位)

総合成績：15位(11時間20分22秒)

昨年15位(11時間16分37秒)

トップとの差 28分46秒(昨年16分46秒)

シード校との差 6分40秒(昨年3分14秒)

<特記すべき成績>

<予選会> 50位以内

- ・24位：小嶋直耶（4年生）
- ・38位：小堀佑真（4年生）

（1年生の活躍…53位：赤松宏樹、54位：柿原聖哉）

<本戦>

- ・5区：小堀佑真（4年生） 2人抜き（17位⇒15位）
区間5位の走り
- ・6区：久門大輔（4年生） 1人抜き（15位⇒14位）
区間7位の走り

三浦半島支部は、いつもの通りJR保土ヶ谷駅から国道1号線を横浜方面に120mほど行った「円福寺前」信号そばで、往路2区坪内選手と鶴見中継所で話題をさらった復路9区、鈴木選手を応援しました。



JR保土ヶ谷駅周辺で熱心に応援した面々（1月3日）

本年は母校での箱根駅伝報告会が1月17日（火）に行われ、たくさんの卒業生、在學生、商店会の皆様ほかから選手を激励しました。



箱根駅伝報告会風景（1月17日 神大体育館）

特別寄稿

陸上競技部OB会会長 松浦 修

（昭和40年経済卒）



（社）宮陵会三浦半島支部の支部だよりが発行の運びとなりましたことに対し、敬意とお喜びを申し上げます。

古川支部長とは学生時代下宿先が相向かいの家で、また

同学科のうえ、卒業後はお互い地方銀行に勤務したことで何かと縁を感じています。以前より三浦半島支部だよりは宮陵会談話室に置いてあり、継続して読んでおります。内容と発行は、地域の交友の結束を高めるツールと考え、毎回感心して読んでおります。陸上競技部OB会でも「月報」を会員にメール、FAX等で発信しています。また、現役短距離ブロックでは、年報として「部報」（昨年末で第19号）を発行しています。支部長等より寄稿依頼があり、会員の皆様方が一番気に掛けている「箱根駅伝」を中心に、現役の現況等を報告します。紙面の制約でほんの一部しかお伝えできませんが、今後、寄稿、講演等の依頼があれば詳細はその機会にお伝えします。

①今回の第88回箱根駅伝は、3名程怪我や体調不良で予選会のようなベストメンバーで試合に望めず、結果は15位に終わりました。3年生、1年生が力を付け、今年の4月には有望な入学予定者が見込まれ、3年後には上位（5位以内）入賞が望めるところまで来ています。第86回の予選会で通過できなかった「悔しさ」が、昨年・今年と受け継がれ、昨年・今年の4年生の団結力（特に主将、主務の力）は、永年OBとして陸上競技部活動に関与した者として、目を見張るものがありました。

②学校当局を中心とした取組み姿勢の変化も見逃せません。スタッフの強化（村松ヘッドコーチと浅尾コーチの採用）と今年3月に完成予定のクロスカントリーコース新設（付属高校周辺の1Km程度）がその例です。

③OB会も一昨年より支援体制強化を図り、学校当局に1年かけて25ページに及ぶ「所感・要望書」を作成して提出し、OBでトレーナー（ハリ、針灸師中心）の国家資格所有者の協力で、選手が走った後のアフターケアを行い、OBには「現場には顔とお金を出して

も口は出すな！」の徹底を図っています。

最後に今後の課題は、1日3回の食事の充実と陸上競技部専用のトラックの新設です。現状は大和市や川崎市ほかの公園や美業団のトラックを借りて練習しています。箱根駅伝常時出場校で専用トラックがないのは、「神大」と「専修大」の2校のみです。時代の変化に対応できていないことが、優勝より遠去かっている最大の原因です。

全国の宮陵会会員より何故優勝、上位に入れないのかの声があるのは承知していますが、全国の宮陵会会員に訴えます。**各支部で専用のトラック設立の募金活動を立ち上げてください。**学校より10Km以内の土地・設備で数十億円必要です。(青山学院大のトラックは、この方法で完成しました。)トラックがあれば「駅伝ブロック」だけでなく、陸上競技部全員の練習が1箇所で見え、指導できます。トラックがないため、全国から有望な選手が来ないのが現状です。是非よろしく願いいたします。

平成24年新年会を開催

～講演会・懇親会～



(社)宮陵会三浦半島支部副支部長の砂川正夫(昭和44年経済卒)です。新年会で責任者を務めましたので、ご紹介させていただきます。

平成24年新年会(第6回)は1月29日、京急横須賀中央駅そばのセントラルホテルで開かれ、女性や20歳代の参加者も含め55名が参加した。

新年会は今年も2部構成で、1部は塩塚定雄さん(昭和48年貿易卒)の司会により古川支部長の開会挨拶から始まり、講演会へと移行した。講演会では神奈川大学経済学部教授、田中弘さんの「知られざる—会計戦争—日本の富はどこへ行くのか」と題しての講演であった。田中教授は『EU27カ国も統合でも解るように、宗教、言語、人種、通貨の異なる国家間をアメリカ圏に対抗する為、統合成立させたことは、並大抵では成し得ない。その中でEU域内の国内化、通貨、法律、資本市場、通商、検疫、課税等の壁を越えることは難門であったと思う。ましてやEUの会計制度と資本市場、ロンドン、二

ューヨーク、東京との会計制度の統一、国際会計基準の設定となると事が尋常ではない、各国の利害関係が顕著に表れ下手をすると時価会計に参加することにより財政破綻を生じる国さえ出る。これぞまさしく各国間の争い、すなわち「会計戦争」である。』と、以上が田中教授の講演のあらましであると思うが、会計学という一見、取っ付き難いテーマを、会計という概念が現れた時代からの歴史的考察を踏まえ、解り易く時には笑いを交えての80分の講演であった。

第2部の懇親会は、中山廣男さん(昭和36年貿易卒)の乾杯で始まり、参加予定であった昭和44年法律卒の斉藤勁さん(現内閣官房副長官)の代理で夫人の斎藤スミ子さんが、「主人は公務で長崎へ出張しております。現在の職務を得て仕事に専念できるのも、三浦半島支部皆様方の応援があったからです。」と挨拶された。

つづいて、アトラクションでは、横須賀市在住の曾我義治さんによる「日本兵法抜刀術演武」が披露された。演武は真剣を使用する為、懇親会場エメラルド前のホールで行われ、ホテルに訪れた一般の方々も「春の海」の曲をバックに演武された曾我8段に目を見張った。その後会場に戻り、新会員の紹介、ゴルフ会：中川六郎幹事、テニス会：小池邦夫幹事、歩こう会：若林秀明幹事、釣り会：清水英樹幹事よりの活動報告、そして湘南信用金庫理事長 石渡卓さん(昭和51年貿易卒)からは、湘南信金と神大との産学連携協定が成立した件について報告があった。また嶋田晃さん(昭和47年経済卒)、嶋田順子さん(昭和47年短商卒)ご夫妻からは、NPO法人を立ち上げ、コミュニティーバスを運行することが神奈川新聞で取り上げられた件について報告があった。

会は盛会の中、篠田拓郎さん(昭和31年貿易卒)の中締め、堀越昌樹さん(昭和62年法卒)の“ユニーク三本締め”最後に、鈴木和夫さん(昭和46年法卒)、手塚正さん(体育振興委員長、昭和60年英文卒)の音頭で校歌斉唱し幕を閉じた。



アトラクション:陸軍抜刀術の紹介

曾我義治様

新年会のアトラクションとして、「陸軍抜刀術」が披露されましたので、ご紹介いたします。



演武者の曾我さんは横須賀市在住、日本兵法抜刀術誠道会会長（創作刀法曾我流抜刀術代表、中村派戸山流抜刀術範士8段）。抜刀術は、架空の相手に対してではなく、真剣「刀」を使い、実際に、竹、ワラを斬りながら相手との間合い、刀のスピードを重点とした実戦刀法である。今回、新春にふさわしく“春の海”の曲にあわせて武道

歴50年の腕前で日本列島の不景気を一刀両断“四方払い”の演武を披露した。



曾我さんの抜刀術実演
(濡れた畳を丸めて筒状にしたものを一刀両断)

新春講演会

神奈川大学経済学部 田中弘教授

◎田中教授プロフィール

昭和18年札幌市で生まれ、北海道札幌啓北商業高等学校を卒業後、早稲田大学商学部へ進学。その後同大学大学院で会計学を学ぶ。修士課程を終了後、愛知学院大学商学部講師・助教授・教授を歴任。平成5年より神奈川大学経済学部教授。平成12年から平成13年にかけてロンドン大学客員教授。この間に公認会計士2次試験委員、大蔵省・郵政省の研究会座長等を歴任。会計及び会計学について独自の見解を披露し、最近では時価主義に対して鋭い批判を浴びせている。現在、英国ウェールズ大学経営大学院財政会計教授。主な著書は、「時価主義を考える」「わしづかみ 国際会計基準を考える」ほか多数。お住まいは、横須賀市武。

講師自ら講演内容をまとめて投稿してくださいました。

<講演テーマ> 知られざる「会計戦争」 ～日本の富はどこへ行くのか～



皆さん、明けましておめでとうございます。今日は、宮陵会三浦半島支部の新年会とのことですが、こうした会でお話する機会をいただきありがとうございます。

ところで、私が住んでいますのが、この近くの武山（横須賀市）ですので、今日はどこか町内会の集まりのような親しみがあります。

●「退屈な」会計学

一般の方々、つまり会計専門家以外の人たちを対象とした講演では、よく最初にこんな話をします。「会計学——そう聞いただけで眠気がするかもしれませんね」「会計は経理部の仕事。自分に関係ないという方も多いようです」と。そうしたことを話した上で、木村剛氏の話を紹介することもあります。木村さんは、東京大学経済学部の卒業生ですが、東大における会計学の講義を、「見事なまでにツマラナイ講義だった」「授業の内容は1つも覚えていないが、本当にツマラナカッタということだけは、強烈に覚えている」というのです。

たしかに、会計学は経済学に比べて「退屈な」学問かもしれません。しかし、経済学よりはるかに「使える」学問であることは間違いないようで、今の大学生には「ギリシャ文字の並べ替え」（木村、同上）に興じている経済学が、胡散臭く、使えない学問であることを肌で知っているらしく、どの大学でもゼミ生を募集しても経済系のゼミはほとんど人気がありません。それに比べますと会計の講義もゼミもけっこう人気があります。就職に強い資格が取れるということもあると思います。

●経営は「上半身」・会計は「下半身」の世界

会計を単なる「技術」としてみますと、退屈な学問、ツマラナイ学問であることは否定できません。しかし、会計を通して経営者の「金銭感覚」や「お人柄」「品格」が透けて見えることに思いを致せば、会計は実に「人間味のある」「生々しい」学問でもあります。

経営と会計（経理）は、本来、表裏の関係にあるはずで、経営の結果を会計が数値化する、その数値を参考にして次の経営戦略を立てる、このように経営と会計は、深く結びつい

ているのです。経営が良ければ会計の数値もよくなり、経営がうまくいかないときは会計の数値も芳しくなくなる。これが、経営と会計のあるべき姿であり、理念であるはずなんです。

ところが、現実をみると、かなり違うようです。企業経営は、額に汗して頭を使って行うものであり、体で言うと「上半身の世界」だと言ってもよいでしょう。ところが、経営の結果を数値化する会計の段になると、途端に理性（上半身）が働かなくなり、願望が顔をだしてくるのです。不謹慎な表現かもしれませんが、経理・決算の段階になると、「もっと儲かっているはずだ」「こんなに大きな損失を表に出すわけにはいかない」「これじゃ税金が多くなる」といった「下半身の世界」になるのです。

会計は、退屈な学問どころではないのです。経営者がどんな会計・決算をするかは、企業の品格、経営者の人格をともに映し出す鏡でもあるのです。そんなことをオリンパスやカネボウの事件と重ねて考えてみますと、会計って、「切れば血が出る」ことを扱っていることがお分かり頂けるのではないのでしょうか。

●知られざる「会計戦争」

本題にはいりません。今日は、タイトルが『知られざる「会計戦争」—日本の富はどこへ行くのか』ということですが、これだけを見ても何の話か分かりません。でも、枕詞として、会計は「切れば血が出る世界」を扱っているということをお話ししました。

今、世界中の「はげたか資本家」が、日本やヨーロッパの国々から、その財産を掠め取ろうとして躍起になっています。まさか大砲やミサイルで脅かしをかけて奪い取るわけにはいきません。そこで今、他国の財産を「合法的に奪い取る」方法として、「会計基準という平和的武器」と「金融工学というマジック」が使われるのです。

どうやって使うのかは、かなり専門的な話になりますから今日はやめておいて、なぜ他国の財産、つまり他人の財布に手を突っ込むような商法になったのか、ここをお話しします。

●ヨーロッパの敵はアメリカ

ベルリンの壁が崩れたのが 1889 年、西欧社会の西ドイツと共産圏の東ドイツが統合されたのが 1890 年、ソビエト連邦が崩壊したのが翌年の 1991 年です。世界は米ソの冷戦時代、2 強の時代を終えてアメリカ 1 強の時代に入ります。ヨーロッパは、この 2—3 年のうちに北からの脅威が消え、自由を手にする「春」を迎えました。

ところが、自由を謳歌するはずのヨーロッパが、何と欧州連合（EU）を結成したのです。それもソ連が崩壊したわず

か 2 年後の 1993 年でした。なぜ、世界中の国々が小さな政府を目指しているときに EU を結成したのでしょうか。ヨーロッパは今、ソ連という共産主義国家から襲われるという脅威がなくなった代わりに、大西洋を隔てたアメリカの侵略におびえているのです。

●貧乏国となったアメリカ

アメリカは、すでに「物づくり」では稼ぐことができない国になり、もっぱら「物づくり」の脇役であったはずの「金融」に軸足を移しています。国内では、中間層が「吸いつくされたスルメ」のごとく最下層になり、「吸いつくした金持ち」は「富豪」になりました。貧者は職を失い、住む家を失い、車を売り払い、病気になっても治療は受けられず、この国の経済を支える力を失ってしまったのです。

アメリカの富が少数の勝者に偏在した結果、医療も保険も教育も少数の高額所得者のものとなり、さらにその結果、国内産業として成り立たなくなってきました。マーケットが極端に縮小したのです。稼ぐ力を失ったアメリカの企業には投資家も集まりません。しかし、資本は世界中からアメリカに集まってくるのです。行き場を失ったアメリカの資本は、コンピュータ操作だけで荒稼ぎしようとして世界の経済を混乱に陥れてきました。最たるものは、リーマン・ブラザーズの破綻に端を発した世界同時不況です。

●「企業解体の儲け」を狙う投資家

アメリカはもはや物を作っても国内には消費者がいまいませんし、作れば PL（製造物責任）訴訟に巻き込まれます。かといって海外に輸出しようにも、アジア諸国との価格競争・品質競争には勝てません。勝てるとすれば、コンピューターを駆使した金融と IT 産業です。それも「濡れ手に粟」的な、極めて短期的な稼ぎを狙ってきました。物を作って販売するなどといったまどろっこしい商売を嫌い、何と、どこかの会社を買収して資産負債をバラバラに切り売りして、残るキャッシュを手にしようとしているのです。今のアメリカの投資家は、そうした「企業解体の儲け」「企業売上の利益」を上げようと躍起になっています。向かう先は、資本の蓄積の大きいヨーロッパと巨額の金融資産を持っているアジア諸国です。

●話の続きは

どうですか。恐ろしい話だと思いませんか。アメリカの資本は、戦車や大砲の代わりに国際会計基準という「平和的武器」を使って、物づくりで汗を流している国から富を自分の財布に移転させようとしているのです。

こんな話に興味がありましたら、アマゾンで「田中弘」を検索して、私の本を読んでみてください。皆さんが大変興味を持ってお聞き下さったことにお礼を申し上げます。

古川支部長 全国支部長会議で支部を紹介

支部長の熱き思いを披露！

(社)宮陵会全国支部長会議が、平成23年10月15日(土)神奈川大学横浜キャンパスで開催され、その中で、活発に活動している支部として、古川支部長が三浦半島支部の活動を紹介しました。以下は、支部長が昨年全国の支部長を前に発信した内容です。支部長の「会に対する熱き心」がにじみ出た講演でしたので、是非ご一読ください。



『ご紹介頂きました、三浦半島支部の支部長を、仰せつかっております、昭和40年経済卒の古川でございます。

箱根駅伝予選会において、5位通過。部員の頑張りと、

現地での応援の皆様に、頭が下がります。有難う。万歳、万歳。正月、本番での、更なる活躍をお祈りいたします。

さて、まずこのように、発表の機会を頂きました点、お礼を申し上げます。

And so, my fellow Americans

ask not what / your country can do / for you

ask what / you can do / for your country

今、述べましたセンテンスは、皆様よくご存知のジョン、F、ケネディが、35代アメリカ大統領就任演説時のワンフレーズであります。私なりに要約しますと、「我が同胞のアメリカ国民よ、国が、あなたのために、何をしてくれるのかではなく、あなたが、国のために、何ができるかを問おうではないか」と理解しており、私の取り組み方の基本的な考え方のひとつとなっております。

さて、当三浦半島支部のエリアは、神奈川県：横須賀市、三浦市、逗子市、鎌倉市、葉山町の四市一町であり、早や、発足以来、6年目を迎えようとしておりますが、大学当局、宮陵会本部、他地区の支部、当支部の会員、役員の皆様のおかげで今日に至っております。

支部の体制は、支部長以下、副支部長3名を、個々に、総会担当、新年会担当、広報担当と位置づけ、ほかには事務局長、会計、監査2名、さらに地区担当責任者を決め、総勢20名弱で構成し、役割分担をしております。

会費は、年3,000円、4年前前納の場合は、12,000円のところ2,000円割引し、10,000円としています。

会員数は、まだ120名を超えず、特に若手会員が少なく、いろいろと知恵を絞っておりますが、勧誘努力の欠如を恥じており、皆さんに教えて頂きたいと考えております。

役員会は、3ヶ月に1回のペースで開催、且つ開催場所は、各地区持ち回りで実施しており、責任体制が、醸成(すなわち、機運、雰囲気などを次第に作りだしていく)されていると思います。

おかげさまで、支部活動も活発化し、お手元の「三浦半島支部だより12号」をご覧ください。定期的に支部だよりを発行し、時節に合った内容、トピックス等に取り組んでおります。この支部だよりは、毎回、約200部以上を横須賀市汐入にある、行政サポートセンターに集まり、我々の手で印刷しています。この行政サポートセンターには、性能の良いコピー印刷機、紙を折る機械、パソコン、作業用の机、椅子が完備しており、他のグループの利用も多く、席取り、場所取りのため、集合時間よりも早く着くようにしております。ここでは、参考までに、印刷方法、手順について具体的に、お話してみましよう。

①原案出来上がり、印刷日程、集合時間を決め、役員に声かけし、参加可能人員を確保します。

②印刷用紙の事前購入、名宛シールの事前作成、送付用の封筒事前購入ほか事務用品を持参します。

③当日は、役員が汐入の行政サポートセンターに集合し、印刷機に携わる担当、続いて紙を折る機械担当、本部より送付された雑誌「宮陵」や「スタイル」ほか、同好会案内等をセットする担当、封筒に入れる担当、糊つけ担当等と、各人が手分けし、進んで仕事の流れを見極め積極的に流れ作業で取り組みます。

④最後に、郵送代を軽減するため、参加者本人関係宛の封筒を抽出、残りは、宅配のメール便扱いで送付します。その後、時間に余裕のある人は、自費で軽く慰労会を開催。

⑤余談ですが、支部だよりの校正責任者(内藤副支部長)は、集まった原稿を再度パソコンで打ち直し原案を作っておりますが、今後は寄稿者に対し、文面のフォーマットを事前に送り、寄稿者自らがパソコンで打ち込み、広報担当に送ることで、校正作業を少しでも楽に出来ないか等、効率化を考えております。(実施済み)

さて、支部だよりの8ページ、支部同好会通信をご覧ください。

小池会員による影絵の「紙きり」の図案はなんと素晴らしい作品ではないでしょうか。「ゴルフ会」、「テニス会」、「歩こう会」、「つり会」と、それはそれは楽しい会です。盛り上げのため、皆が知恵を出し合い、作りあげています。

なお、余談ですが、各世話人は、情報アンテナを高く意識し、地元においても、たとえば、地区の行政施設で講演、生涯学習のお手伝い、老人ホーム等々に、積極的に参画されていることは言うまでもありません。

近くの支部の卒業生の皆様、この同好会に来たれ、参加をお待ちしております。

懸案でした支部のホームページも既に稼働しており、内容も充実した立派なできればと自負しておりますが、これも会員、役員のお陰です。母校のHPにリンクしておりますので、どうぞ三浦半島支部のHPをご覧ください。

ところで、基本的な支部方針は、①卒業生会員相互の親睦を深める。②母校神奈川大学、社団法人宮陵会の発展に寄与する。③地域社会の発展に寄与する。加えて、現役学生を含め、会員相互の連絡を密にし、情報（読んで字のごとく、「情け」に、「報いる」）を活かしたいと思います。

支部発足以来、種々苦難を乗り越え、現在、支部の体制構築と活動の充実に取り組んでおりますものの、まだまだ道半ばであります。基本姿勢は、皆様と力を合わせ、知恵を出し合い、地道な活動を重ねつつ、私見（私の意見）として、まず、今やらねばならないことは、「卒業生20万人のうち、4万3千人が在住する神奈川の地に、神奈川大学の礎を築き、神奈川大学を中心に、卒業生が各界で繋がり、輪を拡げ、協力、助け合わなければならない」と強く考えております。

最後に、日頃より、大学当局ならびに、宮陵会本部、はじめ、他支部の会員、支部の会員、役員への支えに感謝しております。会員の増強と活動内容の充実に、引き続き、皆様方のご支援、ご協力を重ねてお願いし、挨拶に代えさせていただきますと共に、私は、一人では何も出来ませんが、仲間の支えにより、生きており、夢は見るものではなく、叶えるものだ、信じおります。

18年後の2029年、大学創立100周年まで長生きしようではありませんか。ご清聴有難うございました。』

大学の近況報告

課外活動や大学の近況をお知らせいたします。

●「全日本大学女子サッカー選手権大会」優勝

1月5日第20回全日本女子学生サッカー選手権大会の決勝戦が国立競技場で行われ、日本体育大学と闘い延長戦でも決着が着かず、1-1で両校が優勝しました。

悲願であった女子サッカーの頂点を極めた優勝を記念して、1月19日に湘南ひらつかキャンパスで優勝報告会が約350人の関係者が参加し、盛大に行われました。また、同日平塚市役所で落合市長に、1月25日には、横浜市役所で林市長に優勝報告を行い、激励や励ましの言葉をいただきました。



●工学研究科の福井さん（大学院生）が計測自動制御学会 奨励賞受賞

1月20日、大学院工学研究科経営工学専攻博士前期課程1年の福井文平さんが、「2011年度計測自動制御学会システム・情報部門 奨励賞」を受賞しました。

論文「自己連想記憶の精度向上を目的とした追加記録パターンの最適生成法」では、1980年代にほとんど研究され尽くしたとされる分野への新たな発見とアイデアが評価されての受賞となりました。この研究は、人間の記憶を数理的に表現することを目的としており、将来的には、様々な分野での応用が期待されています。

●H23年度退職教員 最終講義開催される

3月末日をもって退職される教授方の最終講義が1月～3月中旬にかけて開催されました。

退職者は、経済学部：中田信哉教授（当支部で講演していただきました。）、経営学部：柳田仁教授、理学部：野口健一郎教授、外国語学部：岡島千幸教授、水野晴光教授、人間科学部：岩澤啓子特任教授です。

長い間、本当にご苦労様でした。また、ありがとうございました。ご健勝を祈念しております。

●学校法人と湘南信金が産学連携協定を締結

1月12日に学校法人神奈川大学と湘南信用金庫（三

浦半島支部会員の石渡卓理事長)が、産業経済の振興と地域社会の発展を目的とした連携を推進していくため、産学連携協定を締結しました。大学及び湘南信金が持つ人的・知的資源、情報、機能を融合させることで、「産業経済の振興」「人材育成・教育の振興」「地域社会の発展と貢献」に寄与することを目的としています。

なお、同様な包括協定は、昨年7月に平塚信用金庫とも締結しています。



三浦半島支部会員である石渡理事長(右)と中島学長

●2011年課外活動団体(クラブ)の主な成績

■アメリカンフットボール部：関東大学アメリカンフットボール秋季リーグ戦1部Bブロック7位 ■応援指導部：第23回全日本学生チアリーディング選手権大会決勝出場 ■弓道部：第43回関東学生弓道選手権大会秋季男子Ⅱ部リーグ団体戦優勝(入替戦にて1部昇格) ■剣道部：第45回全日本女子学生剣道選手権大会 森田万弥出場、第30回全日本女子学生剣道優勝大会団体戦出場 ■硬式野球部：神奈川大学野球秋季リーグ戦(第一部校)4位 ■サッカー部：JR東日本カップ第85回関東大学サッカーリーグ戦1部9位 ■女子サッカー部：第20回全日本大学女子サッカー選手権大会優勝 ■準硬式野球部：清瀬杯第43回全日本大学選抜準硬式野球大会出場、神奈川大学準硬式野球部秋季リーグ戦1部優勝 ■水泳部：第87回日本学生選手権水泳競技大会200m背泳ぎ2位・100m背泳ぎ3位 久保木怜、100m自由形4位 辻彌岳、200mバタフライ 津田長4位 ■スケート部(アイスホッケー部門) 関東大学アイスホッケーリーグ戦2部準優勝(1部昇格) ■スケート部(スピード部門)：ASUアジアンショートトラックスピードスケート大会男子5000mリレー 村竹崇行準優勝、女子3000mリレー 齋藤仁美準優勝、第34回日本学生ショートトラック

スピードスケート選手権大会男子1500m 村竹啓恒優勝、第35回全日本ショートトラックスピードスケート選手権大会男子1000m 小黒義明準優勝、ISUワールドカップ名古屋男子1000m・5000mリレー 小黒義明3位、ISUワールドカップソルトレイクシティー女子1500m 齋藤仁美9位 ■トライアスロン部：第4回日本学生スプリングトライアスロン選手権大会スタンダードS優勝・日本学生トライアスロン選手権兼チームタイムトライアル選手権大会男子個人優勝 石塚祥吾、日本学生トライアスロン選手権兼チームタイムトライアル選手権大会男子チームTTオープン優勝 早乙女瞭 ■平塚軟式野球部：第34回全日本学生軟式野球選手権大会準優勝 ■男子バスケットボール部：第87回関東大学バスケットボールリーグ戦2部6位 ■女子バスケットボール部：第61回関東大学女子バスケットボールリーグ戦3部5位 ■バドミントン部：関東大学バドミントン秋季リーグ戦男子2部2位、女子3部Aブロック優勝(全日本大会出場)、秩父宮・秩父宮妃杯争奪第62回全日本学生バドミントン選手権大会男子シングルスベスト8 常田周吾 ■ボディビル部：文部科学大臣杯争奪第38回全日本学生パワーリフティング選手権大会パワーリフティング3位 市野智之 ■男子ラクロス部：第24回関東学生ラクロスリーグ戦男子2部Bブロック準優勝 ■レスリング部：明治杯全日本選抜レスリング選手権大会フリースタイル96kg級準優勝・第37回内閣総理大臣杯全日本大学レスリング選手権大会フリースタイル96kg級3位・天皇杯全日本レスリング選手権大会フリースタイル96kg級3位 入江泰久、第37回内閣総理大臣杯全日本大学レスリング選手権大会フリースタイル74kg級3位 長谷川公俊 ■サイクリング愛好会：第8回富士山国際ヒルクライム男子A4位 田中敏樹、 ■吹奏楽部：第59回全日本吹奏楽コンクール金賞受賞(通算24回目)

●「KU ボランティア駅伝」神奈川県とのコラボバス運行

神大が2011年4月から行っている東日本大震災のボランティア駅伝参加者が、昨年12月までに1100名を突破しました。冬になっても大学で継続的にボランティア活動を続けているのは、神大だけです。神大生の暖かい心が、今も支援の襷をつないでいます。今年の2月からは、神奈川県が実施している社会人の「かながわ東日本大震災ボランティアステーション事業」と神大が共同でボランティアバスを3月下旬まで運行しています。

詳しいことは、神奈川大学のHPをご覧ください。

<わが支部の紹介>

千葉支部 佐藤隆志



本年度（平成23年度）千葉支部長となりました佐藤隆志（昭和53年経済卒）と申します。この度、三浦半島支部様より <わが支部の紹介>の寄稿依頼を頂き誠に光栄に存じます。どうぞよろしくお願いいたします。

ます。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、千葉支部は県内に住所のある卒業生約5,000名を対象に、毎年10月下旬支部総会を『千葉の集い』と称して実施しています。総会の実施にあたり、対象卒業生全員に総会通知を発送しています。返信は例年600通程、そのうち50名から60名が出席しています。

当支部では、前支部長（矢島肇氏 昭和29年貿易卒）の代から、支部総会出席者を増やそうと、様々なことをやってみりました。まず女性の出席者には、総会参加費用を約半額とし、プレゼントも用意しました。そして、若手の男性OBには、会社や部活動の後輩等が身近にいれば、積極的に支部総会に誘って来る等を実施してまいりました。また、同窓生同士が結婚している場合もありますので、夫婦での参加を呼びかけたりもしました。私自身も妻が同期の卒業生なので、いつも一緒に支部総会に参加しています。その甲斐もあったのか、数年前に支部総会がきっかけでカップルが誕生し、現在では2組が結婚いたしました。大変喜ばしいことです。

しかし、少し残念なことに、ここ数年総会の出席者が減少気味です。なんとか出席者を多くしていきたいと考えており、立地条件等を考慮して会場を使ったため、現在は参加費が高いのではと反省しているところです。

以前千葉支部では、居酒屋を借り切って支部総会を実施していたことがあり、参加費が安かったこともあったのか、この時には80名から90名の参加がありました。しかし、会場が手狭になったのでここ数年は実施していませんでしたが、形にこだわらずなるべく参加しやすい割安の会場で実施して欲しいとの声が多数あることから、来年度は適当な場所（居酒屋）を借り切った支部総会にしようかと計画しています。

今、千葉支部では若手で愛校心を持って積極的に支部活動をしてくれるOB・OGが少しずつ増えています。年に一度の支部総会『千葉の集い』だけでなく、箱根駅伝

での沿道応援はもちろんのこと、大手町ゴールの神大応援団の前には、千葉支部若手の集団があります。私自身嬉しさを感じます。

三浦半島支部におかれましては、活発な活動をなされていることをお伺いしております。私ども千葉支部でも三浦半島支部に負けないよう、より以上の校友の輪を広げるため頑張りたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

最後になりましたが、三浦半島支部のますますのご発展と皆様のご健勝をお祈りして、千葉支部の紹介とさせていただきます。ありがとうございました。

<紹介コーナー>わが社・わが店・わが商品

「(株)深津木工所」 深津敏夫



昭和51年経済卒の深津です。横浜市西区の戸部駅近くで、昭和23年から開業している株式会社深津木工所の社長を務めております。去年6月の三浦半島支部の総会に初めて参加させていただいた新入会員ですが、当社の紹介をさせていただきます。

「木工所」と言っても何を作っているのか分かりにくいかもしれませんが、私共の会社は主にマンション、学校、保育園、養護施設などに使われる木製の建具を製造して、納入する会社です。

主に横浜地場のゼネコンや建築関係の会社からの仕事を受注させていただき、横浜市や神奈川県発注の木製建具工事の仕事も数多く施工させていただいており、「横浜市建築局優良専門業者」を過去に3回受賞することが出来ました。

一時、木製建具が金属やアルミ製品に押され出番がなくなることもありましたが、最近では、木の持つ本来の質感や香りなどが見直されるようになり、木に携わる仕事関係者としてうれしく思っています。

当社では、自社工場で材木から木取してドアや障子、框戸などを製作しておりますので、木屑やカンナ屑も出ます。今はそれを乗馬クラブなどに差し上げておりますが、何かお役に立つことがあればと

思っています。

私共の会社は1号線のすぐそばで、お正月には箱根駅伝の疾走が見られます。また強い神々が帰ってきますよう、そして今後の宮陵会・三浦半島支部のご発展をお祈り申し上げます。

営業時間：8時～17時 定休日：土曜・日曜・祝日

住所：横浜市西区戸部本町24-18

電話：045-322-5628



深津木工所内にて

支部同好会通信 (世話人が紹介します)

●ゴルフ会世話人:中川六郎(昭和44年経済卒)

メールアドレス：nakaroku@jcom.home.ne.jp

連絡先：090-9003-2499



3月16日、第17回オープンゴルフコンペがホームコース葉山国際カンツリー倶楽部エメラルドコースで、6組23名が参加し、開催され

ました。参加者数23名はこれまでで最多でした。

当日は、温かな好天の下で9時36分にアウト・イン同時スタートしました。優勝は2回目の皆川氏、準優勝はベスグロ90の有川氏、三位は石井氏。ドラコンは塚本、皆川氏、ニアピンは諫山、鈴木氏。初参加は、新年会でご講演をいただいた田中教授、塚田キャプテンの久美子夫人、原さんの友人塚本氏でした。どなたでも参加できるオープンコンペです。お友達やご家族をお誘いのうえ是非ご参加ください。次回は葉山国際カンツリー倶楽部で、7月13日に予定しています。



葉山国際カンツリー倶楽部にて (H24.3.16)

●テニス会世話人:小池邦夫(昭和38年機械卒)

メールアドレス：kichiemu@mbj.nifty.com

連絡先：046-875-5079



毎月第3月曜日11時から16時まで富士山と大山が遠望できる茅ヶ崎の湘南ローンテニスクラブで開催しています。初めての方には無料の体験見学

システムがあり、基本からお相手します。足に優しい土のコートですから、テニスシューズだけ用意していただければ、ラケットはお貸しします。オーナーが造り酒屋なので、シャワーの後のアフターテニスには隣接の食堂で地酒、地ビールが楽しめます。昨年同様、夏には長野の神大富士見高原研修所で家族友人同伴の合宿を計画しています。北京オリンピック仕様のすばらしいコートが待っていますが、テニスに飽きたら静かな環境で読書や散策も一興です。ぜひ、ご参加ください。



湘南ローンテニスクラブにて (H24.2.20)

●歩こう会世話人:若林秀明(昭和39年経済卒)

メールアドレス:w-hideaki@mvd.biglobe.ne.jp

連絡先:090-3220-1479



前回の「歩こう会」は、11月26日に鎌倉市内の寺院を回りました〔コース:宇都宮稲荷神社(幕府跡)→大仏次郎茶亭→宝戒寺→勝長寿院跡→

報告寺→衣張山(昼食)→名越切通し

→安国論寺→妙法寺→安養院〕。当日は鎌倉駅前に集合し、今回初参加の方がいましたので、自己紹介をしてから、スタートしました。皆さん健脚であり、また紅葉の時期でもあり楽しい一日でした。

次回は5月29日(火) 観音崎&猿島(戦争遺産ガイドツアー)を船で巡る予定です。観音崎公園が特別に企画するイベントに便乗いたしますので、ご承知おきください。当日は観音崎の灯台を海上から眺め、砲台がある猿島へ渡って、記念艦三笠を観覧します。会費は一人当り2,000円(乗船代、三笠観覧、保険料)です。奮ってご参加ください。



鎌倉衣張山山頂にて(H23.11.26)

●つり会世話人:清水英樹(昭和56年法律卒)

メールアドレス:Shimih01@kanagawa-u.ac.jp

連絡先:090-2257-0691



昨年は土・日曜の出張が多く、なかなか釣りにはいけませんでした。秋のワラサは数本釣りましたが爆釣とはならず、欲求不満のまま年越し、正月に今年こそはと思い意気込

んで出船、一応は竿頭でしたが、かわいい鯛が二枚とまた欲求不満がつる一方でした。会員の中には釣りをする人が少ないようで、仕立ては難しいようです。個人的に一緒に釣行

する、または、交通機関がない人は連絡をいただければご相談いたします。暖かくなったら春の乗っ込み鯛で大物を釣りに上げてみませんか。ご連絡をお待ちしております。

支部HP(ホームページ)からのお願い

<http://miurahanto.blog.shinobi.jp> 塩塚定雄



支部広報のお手伝いをしています塩塚(昭和48年貿易卒)です。

ホームページはご覧になってますか?

ホームページのトップには、支部総会や新年会、ゴルフ・テニス・釣りの同好会、歩こう会など支部開催行事のお知らせ等が掲載されています。また、会員からのお便りのページもあり、内藤正久さんからは、毎月趣味の「野鳥の写真」と「コメント」が送られてきますので、掲載しております。

パソコンを開いたら必ず確認してくださいね。お便りをお待ちしております。

お便りは、ホームページ上の『ご連絡』のメールフォームをご利用になり、お寄せください。今後、さらにご利用が増えますようお願いしております。

事務局からのお知らせ

新会員のご紹介(敬称略)

- 米田光男(昭和33年経済卒) 葉山町木古庭
- 江尻二十三(昭和48年第II経済卒) 横須賀市大津町
- 久根口昭二(昭和59年第II法律卒) 横須賀市三春町
- 塩谷宏之(平成21年経済卒) 三浦市南下浦町

平成24年度 支部総会開催告知

開催日時:平成24年6月17日(日)13:00~

場所:横須賀セントラルホテル

内容:総会(役員改選)・講演会・懇親会

会費:6,000円 奮ってご参加ください。

平成24年度 代議員会・総会のご案内

- 代議員会 平成24年5月26日(土) 午後開催予定
横浜キャンパス 16号館 セレストホール
 - 総会 代議員会終了後 同場所
- ※代議員会・総会には、卒業生ならどなたでも出席できます。

会費納入のお願い



会計を担当しております鈴木
(昭和44年経済卒)です。
年会費のお振込をお願いいた
します。該当者には郵便の
「払込取扱票」を同封いたしま
した。振替手数料は支部で負担いたします。

◎郵便振替受入口座：00290-5-95815

宮陵会三浦半島支部

◎横浜銀行口座：久里浜支店 普通預金 1747984

宮陵会(神奈川大学校友会)三浦半島支部

- 支部年会費は年間3千円、4年間前納は1万円です。
※三浦半島支部の活動は、三浦半島支部年会費で運営
しています。宮陵会本部の会費とは異なりますので、
ご注意ください。

支部年会費納入状況 (H24.3.20現在)

〔平成24年3月末まで納入済〕 (敬称略)

(鎌倉)川瀬 元夫、	山岸 一輔、	井口 淳
(逗子)長澤 良成、	石渡 浩、	深津 敏夫
(葉山)小池 邦夫	中村 進、	周藤亜矢子
(横須賀)鈴木 昭利、	萩原 孝、	角谷 彰、
石井 一男、	石渡 敏夫、	大倉 国光、
浅山 正義、	奥野 晶洋、	久保田宣彦、
相原 充、	鈴木 和夫、	二井美恵子、
菊池 武、	箕輪 義夫、	名取美佐男、
川口 好孝、	清水 洋一、	吉田 武男、
市川 国男	島 久喜雄、	島崎 和久、
青山 隆一		
(三浦)天白世里子		

〔平成25年3月末まで納入済〕

(鎌倉)篠田 拓郎
(横須賀)蛭子 英二、 上原 章道、 武井 利徳、
長島 保雄、 永野 茂、 植山 修治、
石渡 卓、 靄田 俊秀、 三縄 義和、
寺西 厚、 伊藤 一利、 南雲 忠男、
松井 一郎

〔平成26年3月末まで納入済〕

(鎌倉)石井 和行、 若林 秀明、 古川 勝彦
(逗子)岸本 光瑞 (葉山)岩澤 正之
(横須賀)山内 元式、 八嶋 政臣、 中山 廣男、
落 勝廣、 村田 龍也、 結城 康雄、
長谷川征勝、 金井 昌孝、 熊澤 勝喜、
福島 康臣、 砂川 正夫、 森下 守久、
鈴木 稔、 野村 晴男、 嶋田 晃、
塩塚 定雄、 舟崎 学志、 内藤 正久、
清水 英樹、 工藤 真也、 金野 義勝
(三浦)原 柳作、 石渡 大輔

〔平成27年3月末まで納入済〕

(鎌倉)小澤 光、 矢澤 基一、 田中 章仁、
(葉山)中川 六郎、 石渡 俊一
(横須賀)鳥海 洋義、 星山 正範、 鈴木 康介、
石田 泰教、 稲垣 茂、 嶋田 順子、
松岡 和行

〔平成28年3月末まで納入済〕

(葉山)米田 光男
(横須賀)伊澤 隆雄、 鈴木 三郎、 西脇 幸二、
堀越 昌樹、 塚田 尚
(三浦)源代 价克

合計：93名

～編集後記～

先日、60歳手前から70歳前半の主婦3人を車に乗せたときのこと、亭主が定年を迎え、自宅にいるようになったという話題になり、大変盛り上がっていました。ともかく亭主が家にいることがストレスになるということで、さらに、あれこれ言われると最悪と、手厳しい。「浪費をしない趣味」や「共通した仲間作り」をして、健康で少しでも家にいないことが、夫婦円満の秘訣かもしれませぬ。そういう意味で、宮陵会の支部活動に参加することは、夫婦円満にもってこいではないでしょうか。皆さんの積極的な参加をお待ちしております。(N)